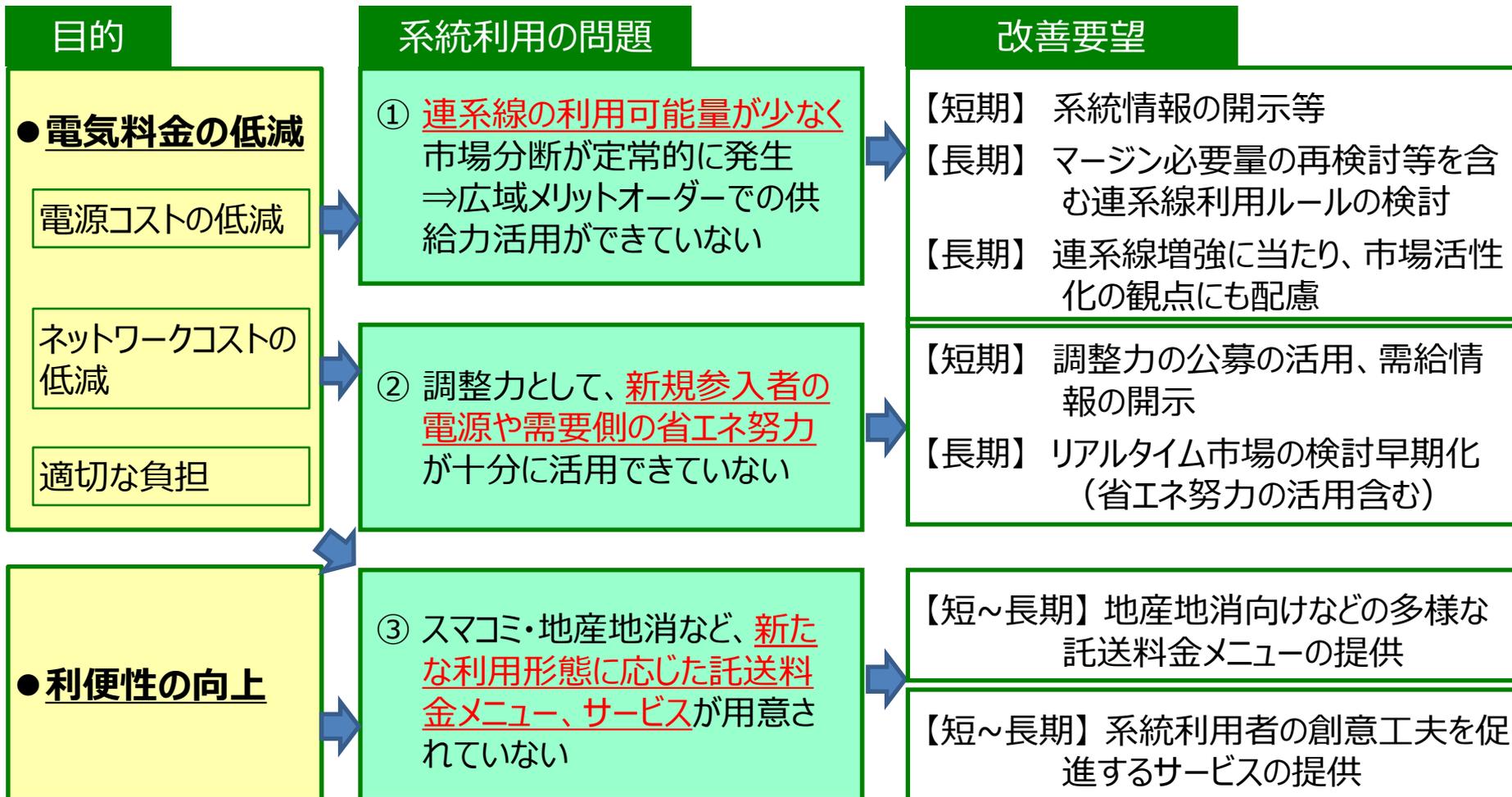


# 託送制度の見直しについて

株式会社 エネット

2016.3.16





## 問題意識

- 周波数変換設備（FC）や北本連系線において、混雑による市場分断が定常化している
- 連系線には、電力会社のみが利用できる「マージン」が設定されており、新電力が利用できる量が少ない

## 改善要望

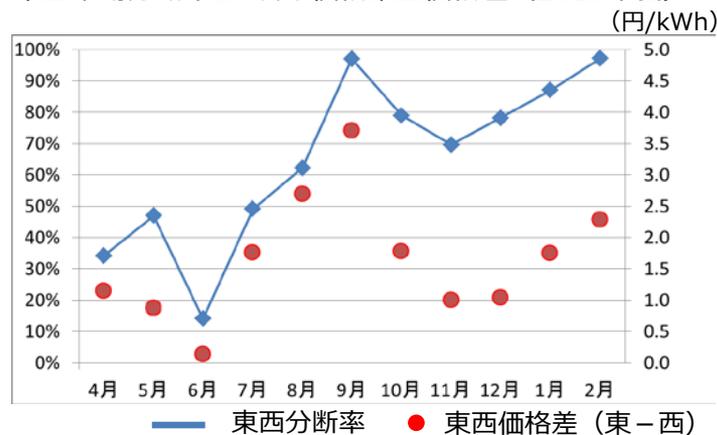
### 【短期】

- 系統の潮流情報等を開示し、第3者がマージン必要量を納得感を持って検証できるようにして頂きたい

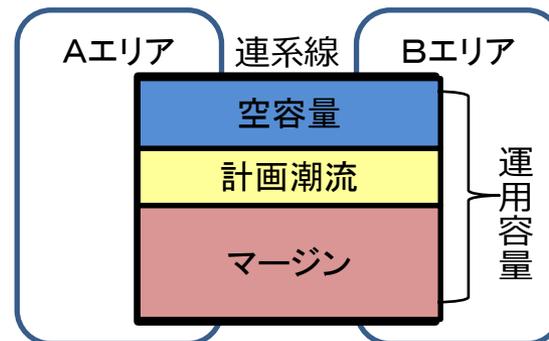
### 【長期】

- マージン必要量について、実需給断面に近づくにつれ、さらに減少させるなど、よりきめ細かく運用して頂きたい
- 計画潮流については、先着優先ルールとなっているが、発電効率やCO2排出量等の観点も踏まえ、新たなルールについても検討して頂きたい（確保期間の見直し等）
- 増強後の連系線使用ルールを考えるに当たり、安定供給に加え、市場活性化の観点にも配慮して頂きたい

東西市場分断率とスポット価格東西価格差（2015年度）



出典：JEPX取引情報からエネット作成



## 問題意識

- 需給逼迫時などの需給情報が提供されておらず、需給調整にかかるコストが不透明
- 新規参入者の電源や需要家の省エネ努力などを調整力として活用するための環境が整備されていない

## 改善要望

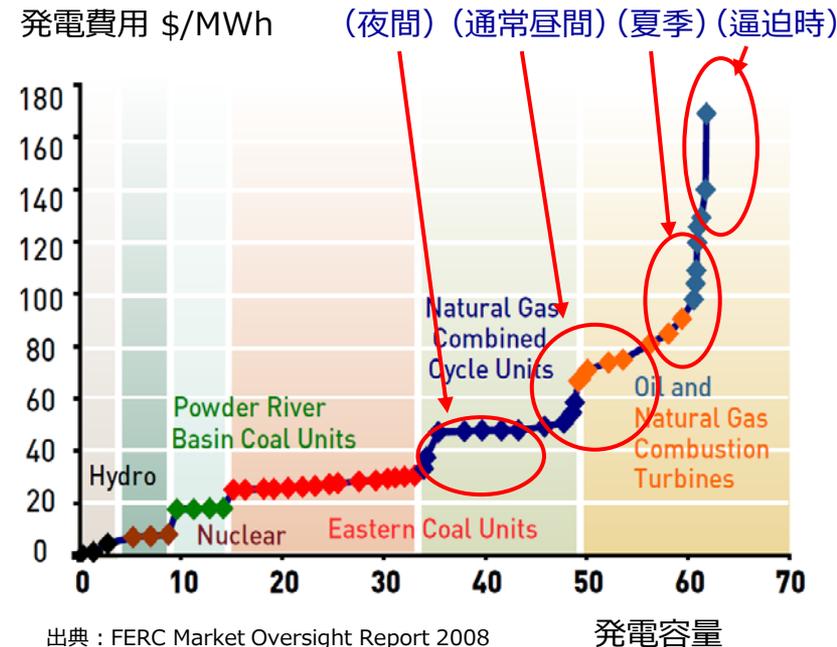
### 【短期】

- 新規参入者の電源等の活用可能性判断に資する情報提供
  - 当日の需給状況 等
- 調整力の公募について、スペックに応じて要求条件を整理し、新規参入者も参加しやすい仕組みにしたい（応答時間、オンライン設備に関する要件等）

### 【長期】

- リアルタイム市場の創設について、早期に検討を進めてほしい
  - リアルタイム市場で取引する調整力の整理（需給調整（アンシラリー）、予備力）
  - 需要家の省エネ努力（ネガワット）の活用環境の整備
  - 発電者、需要家など関係者の参画準備 等

### ○調整力イメージ



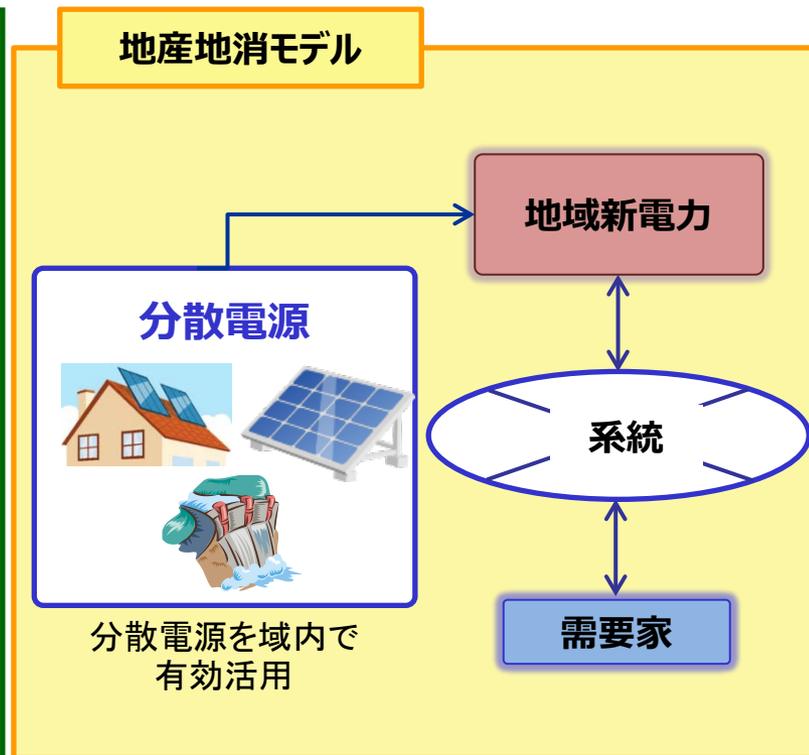
問題意識

- 分散電源、スマコミ・地産地消など、系統の新たな利用形態が出現してきているが、従来の集中型電源から需要に供給する利用形態をベースとして料金設計がなされており、新たな利用形態による潮流改善効果などを評価した料金設計が必要ではないか

改善要望

【短～長期】

- 分散電源やスマコミ・地産地消モデル等、系統の多様な利用形態に応じた託送料金メニューを用意して頂きたい
- (例) 地産地消モデル向け料金
- 地産地消モデルで分散電源を活用して域内の需要に供給する場合は、潮流改善の効果などを評価した料金設計として頂きたい
  - 地産地消モデルの普及促進により、地域の活性化にも貢献可能
- 次の見直しにおいては、集中型電源と分散電源をバランス良く配置することで潮流改善を促進するための料金設計についても検討して頂きたい



## 問題意識

- 自由化環境下においては、送配電部門がオプションとして、系統利用者の利便性向上に資するサービスを提供し、収益向上を図るという観点での取り組みも必要ではないか

## 改善要望

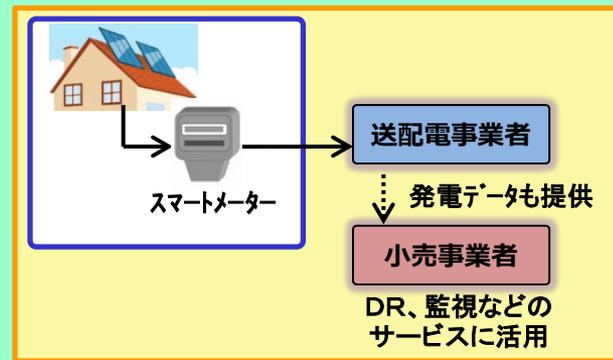
### 【短～長期】

- 系統利用者による需要家への多様なサービス提供を支援するためのオプションサービスを提供して頂きたい

#### (例) 発電量データ（太陽光逆潮流量データ）の提供

⇒発電者が発電機にメーター、センサー、通信設備等を設置しなくても、スマートメーターの計測データを活用することで、以下のようなサービス提供が可能

- デマンドリスポンスサービス
- アセット管理・監視サービス 等

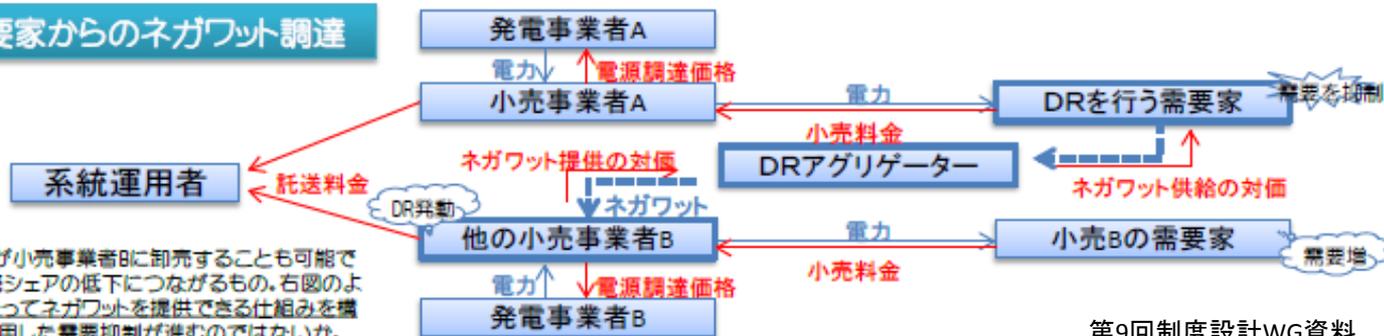


#### (例) 他需要家からのネガワット活用モデルに必要なデータ提供

### ②小売事業者による他社需要家からのネガワット調達

小売事業者Aの需要家が生み出したネガワットを、アグリゲーター経由で他の小売事業者Bが調達。小売事業者Bは、自社需要について同時同量を達成するためにこのネガワットを活用。

※DRにより生じた供給余力を小売事業者Aが小売事業者Bに卸売することも可能であるが、小売事業者Aにとっては自社の小売シェアの低下につながるもの。右図のようにDRアグリゲーターや需要家が主体となってネガワットを提供できる仕組みを構築することで、ネガワット取引を積極的に活用した需要抑制が進むのではないかと。



## 目的

### ● 電気料金の低減

電源コストの低減

ネットワークコストの低減

適切な負担

## 系統利用の問題

① 連系線の利用可能量が少なく市場分断が定常的に発生  
⇒広域メリットオーダーでの供給力活用ができていない

② 調整力として、新規参入者の電源や需要側の省エネ努力が十分に活用できていない

③ スマコミ・地産地消など、新たな利用形態に応じた託送料金メニュー、サービスが用意されていない

## 改善要望

【短期】 系統情報の開示等  
【長期】 マージン必要量の再検討等を含む**連系線利用ルール**の検討  
【長期】 連系線増強に当たり、市場活性化の観点にも配慮

【短期】 調整力の公募の活用、需給情報の開示  
【長期】 **リアルタイム市場**の検討早期化（省エネ努力の活用含む）

【短～長期】 地産地消向けなどの**多様な託送料金メニュー**の提供

【短～長期】 系統利用者の創意工夫を促進する**サービスの提供**

## 取り組み方法

- **短期的課題**と**長期的課題**を整理し、**検討ステップ**を分けて**取り組む**のが望ましいのではないかと